

独立行政法人国立病院機構 呉医療センター・中国がんセンター 内視鏡センター

【住所】 広島県呉市青山町 3-1 【病院長】 上池 渉 先生 【病床数】 700 床
 【内視鏡検査・治療総数(2010年度)】 上部内視鏡検査 4,890件、下部内視鏡検査 2,413件、
 ERCP 370件(胆道処置300)、ESD 177件(食道19、胃124、大腸34)、大腸EMR 366件、
 内視鏡的止血術 132件、EIS 83件、超音波内視鏡検査 214件(消化管37、胆膵180)、胃瘻造設術 150件
 【保有機器類】 上部用14本(うち拡大内視鏡2本、経鼻内視鏡1本)、下部用11本(うち拡大内視鏡7本)、
 十二指腸用4本、上部超音波3本、小腸用1本、気管支用9本、高解像度ハイビジョン内視鏡システム(NBI機能搭載)6台
 【スタッフ】 医師 9 名、看護師 5 名、内視鏡技師 1 名、検査補助員 4 名



地域のがん診療重要拠点として 先進医療である大腸ESDに 早くから取り組む

中国地方におけるがん診療の重要拠点として 先進医療の提供と地域連携に尽力

呉医療センター・中国がんセンターは、明治22年に創設された呉海軍病院を前身とする歴史ある医療機関です。昭和31年10月に名称を国立呉病院と改め、平成18年に創立50周年を迎えました。現在では27診療科・700床の地域の基幹病院として、主に臓器別のグループ診療を基本とし、日本で二番目となる病理外来を新設するなど、地域住民のニーズにきめ細かく対応しています。また、「中国がんセンター」の呼称のとおり、中国地方におけるがん診療の重要拠点としてあらゆる種類のがんに対する積極的な治療を行っています。平成18年8月には呉医療圏における地域がん診療連携拠点病院の指定を受け、また平成19年8月には呉二次保健医療圏における地域医療支援病院の承認を受けるなど、高度先進医療の提供と地域連携の充実に力を入れています。



消化器内科医長
桑井 寿雄 先生



消化器内科医長
山口 厚 先生

地域のがん拠点病院として 早期癌の内視鏡治療に積極的に取り組む

同院の内視鏡センターは、高度医療・急性期医療を担う病院の特性を最大限に活かすため、地域の医療機関との連携を主眼において診療を行っています。疾患の早期発見と早期治療を目指し、EMRやESDなどの内視鏡治療を積極的に行っています。中でも先進医療に設定されている大腸ESDには早くから取り組みを始め、消化器内科医長の桑井寿雄先生が中心となって年間40例ほどを施行しているそうです。桑井先生は、「当院では人間ドックを行っていませんので、早期癌の治療は近隣の開業医の先生からの紹介患者様が少なくありません。そのため近隣の医療機関との地域連携は非常に重要で、安心して患者様をご紹介いただくためにも治療実績を公開しています。市内の研究会で積極的に症例発表を行うなど、信頼関係の強化に努めています」とご説明になりました。内視鏡センターではカプセル内視鏡やシングルバルーン小腸内視鏡などの最新機器を導入して幅広い診療を行っていますが、胆膵疾患に関してはセンター内にTV室を完備し、消化器内科医長の山口厚先生を中心とした2名の担当医とERCP手技に精通したスタッフを常時配置して、緊急ERCPにも対応しています。山口先生は、

▶次ページへつづく



Defining tomorrow, today
in Endoscopy.

「比較的若手の医師が多いのですが、私がお手本を示すよりも自分自身で多くの症例を経験してもらうことを重視した教育制度を取っています。難しい症例に関しては状況に応じて手を貸すこともあります。なるべく術者となった本人が戦略を立て、最後まで手技を完結するよう指導しています」と、実践的な教育制度についてお話しいただきました。



内視鏡センター内に完備されたTV室



洗浄機

患者様にとって安全・安心な検査や治療を提供するため 検査補助員を導入して業務の効率化を図る

日々進化する高度な内視鏡診療を安全確実にを行うため、内視鏡センターでもチーム医療の強化に力を入れています。中でも、多くの症例に対応するためにはコメディカルスタッフの専門性を高め、医師と役割を分担して検査や治療にあたることが重要になっています。看護師で内視鏡技師の資格を持つ沖元恵技師は、「ESDなどの長時間にわたる手技の場合は、看護師は患者様の鎮静状態を常時モニタリングし安全に配慮することが重要です。従来は、機器類の準備や片づけも内視鏡技師や看護師が対応していましたが、今年から検査補助員を3名採用し、物品の準備や片づけ、内視鏡の洗浄を専任で担当してもらえるようになりました。これにより、患者様の対応や手技の介助に集中することができ、より安全で苦痛のない検査や治療を患者様に提供できるようになりました」とご説明いただきました。無資格の補助員が内視鏡業務の一端を担うことになるので、業務内容のマニュアルを作成して手順を明確化し、また感染対策など重要な知識を習得してもらうため不定期で勉強会を開催しているそうです。



看護師(内視鏡技師)
沖元 恵 技師



内視鏡センターのみなさん